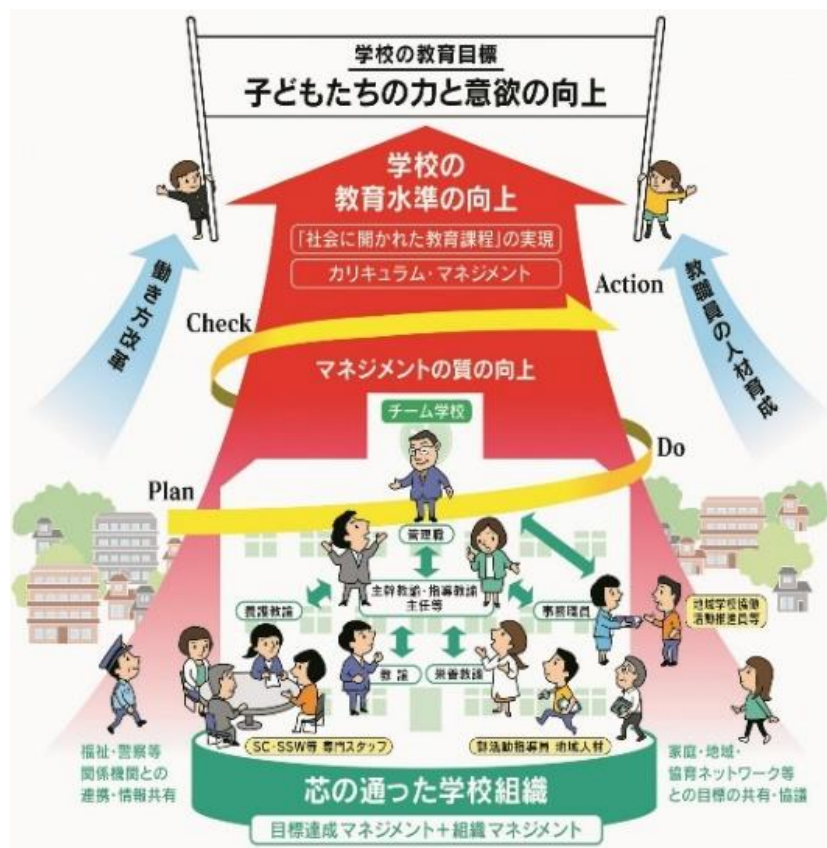


「芯の通った学校組織」推進プラン 第3ステージ ～取組事例 第1集～



令和3年3月
大分県教育委員会

はじめに

大分県において、子どもたちの力と意欲の向上を図るための「芯の通った学校組織」の確立を目指した学校改革は、学校の組織的課題解決力を着実に高めてきました。

令和2年度からの第3ステージでは、これまで積み重ねた取組をより確かなものとし、「地域とともにある学校」への転換を図りつつ、学校における働き方改革を達成する学校マネジメントを追求することで、本県教育の将来にわたる持続的・発展的な姿と、本県教育水準の更なる向上を目指しています。

また、学校マネジメントの取組を持続的・発展的なものとし、新しい学習指導要領が目指す子どもたちに必要な資質・能力の育成へと繋げるため、「学校評価の4点セット」による検証・改善を、本県におけるカリキュラム・マネジメントとして取り組んでいます。

本事例集は、第3ステージの初年度の好事例を紹介をしています。第3ステージに変更した「学校マネジメント4つの観点」^{※1}ごとに事例集を作成しています。

ぜひ、それぞれの学校や教育委員会で活用していただきたいと思います。

※1 学校マネジメント4つの観点

目標達成に向けたマネジメントや組織体制構築のマネジメントに関して、取組の徹底が必要なポイント（「芯の通った学校組織」推進プラン第3ステージ 40頁参照）。

子どもと教職員の意欲あふれる学校づくりに向けて「芯の通った学校組織」は第3ステージへ

「芯の通った学校組織」の確立を目指した学校改革は、学校の組織的課題解決力を着実に高めてきました。これまで積み重ねた取組をより確かなものとし、「地域とともにある学校」への転換を図りつつ学校における働き方改革を達成する学校マネジメントを追求することで、本県教育の将来にわたる持続的・発展的な姿と、本県教育水準の更なる向上を目指します。【期間：令和2～4年度】

1 学校は変わってきている

- 学校マネジメント（組織・目標達成）の取組は浸透し成果に結実
- 第1・第2ステージで目指した姿に未到達の部分は取組を継続

〈小・中学校〉

体力面 >> 全国に誇れる水準まで向上

学力面 >> 全国平均を上回る水準まで向上

目指す姿に向かう取組の徹底・方法の改善が必要

2 環境が変わってきている

- 子ども・家庭が抱える問題の複雑化・多様化
- 全国的な人材確保難、学校現場の世代交代の加速
- 働き方改革関連法の成立、教員の長時間労働が社会問題化
- 学習指導要領の改訂（「社会に開かれた教育課程」）
- 県内学校におけるコミュニティ・スクール（CS）導入の進展

教員が子どもと向き合う時間を確保する「学校における働き方改革」の推進が必要

学校と家庭・地域が目標を共有し、目標達成に向けて協働する「地域とともにある学校」への転換が必要

3 第3ステージの方向性

子どもの学びのために、パフォーマンスを最大化

学校における働き方改革 × 地域とともにある学校

POINT 学校マネジメントの深化（カリキュラム・マネジメントの充実）

学校の目標達成・組織マネジメント、教育課程に基づき組織的・計画的に教育活動の質の向上を図るカリキュラム・マネジメント、教育活動の質の向上や学校行事の精選など家庭・地域と協働して行う学校における働き方改革を進めるため、「学校評価の4点セット」の検証・改善を実施。

- 📌 育成を目指す資質・能力と明確に対応した学校の教育目標と重点目標、これと連動した達成指標・重点的取組・取組指標の設定、学校内外との共通理解
- 📌 検証結果を教育課程に反映しつつ行う短期及び年度を跨いだPDCAサイクル
- 📌 主任等によるミドル・アップダウン・マネジメントの実践と校務環境の整備
- 📌 管理職の役割は「家庭・地域との協働」を含めたマネジメント

POINT 「チーム学校」の取組を継続・発展

- 📌 専門スタッフ等を活用した専門性に基づくチーム体制の構築
- 📌 少数職種がチームで活躍する校内体制の推進と実践的な研修の設定

POINT 学校における働き方改革の推進

- 📌 「学校評価の4点セット」の重点目標に働き方改革の項目を追加
- 📌 効率的な学校運営に向けた会議の持ち方・校務分掌・行事の見直し
- 📌 組織的な指導・運営による部活動改革及びICTを活用した業務改善

POINT 「地域とともにある学校」への転換（目標協働達成）

- 📌 家庭・地域と、学校の教育目標と「学校評価の4点セット」を共有
- 📌 目標協働達成に向けた学校運営協議会等の活用
- 📌 行事の精選・見直し（学校・家庭・地域の負担軽減、役割分担の見直し）

POINT 学校規模に応じた学校マネジメントを検証

- 📌 運営委員会やミドル・アップダウン・マネジメントの実地検証

学校マネジメント 4つの観点	具体的な取組	プラン冊子 版記載箇所	教育事務所					
			中津	別府	大分	佐伯	竹田	日田
観点Ⅰ 「学校の教育目標、重点 目標等の設定・共有」	資質・能力の3つの柱を踏まえた教育目標、 重点目標等を全教職員で共有する工夫	P. 13 L27～			事例① 市浜小			
	育てたい子ども像の可視化	P. 12 L27～		事例② 豊洋小				
観点Ⅱ 「PDCAサイクル」	児童の成長に応じた着実な検証・改善を行 う学年部による『ワイガヤ』の取組	P. 14 L2～	事例③ 南部小					
	全体とチームとの往還をつくり出す検証・ 改善の工夫	P. 14 L6～			事例④ 宇目緑豊中			
	学校の教育目標の達成に向けた、短期の検 証・改善による授業改善の工夫	P. 14 L28～			事例⑤ 明治小			
観点Ⅲ 「組織マネジメント」	主任等が効果的に機能する学校運営体制	P. 15 L15～					事例⑥ 千歳中	
	学年や教科の枠を越えた組織マネジメント の推進	P. 15 L18～						事例⑦ 北部中
	小規模校における主任制度の充実と運営委 員会の効果的な実施	P. 15 L23～			事例⑧ 佐志生小			
	ICTの活用による業務の改善	P. 15 L31～					事例⑨ 緒方小	
〔学校における〕 働き方改革	ICTを活用した効率的な授業技術の共通理 解と若手育成のしくみづくり	P. 32 L3～			事例⑩ 挾間小			
観点Ⅳ 「目標協働達成」	家庭との「個人カルテ」共有と地域と連携 した教育課程で目標協働達成	P. 16 L7～	事例⑪ 津民小					
	「育成を目指す資質・能力」をもとにピ ジョンとエビデンスを地域と共有	P. 16 L14～			事例⑫ 臼杵小			
	地域人材・地域素材を活用した交流（目標 協働達成）	P. 16 L19～		事例⑬ 大内小				
	保護者が主体になる家学（うちがく）のス スめ	P. 16 L19～						事例⑭ 朝日小

「『芯の通った学校組織』推進プラン第3ステージ」(令和2年3月)以下、プラン冊子
 観点ごとのポイントと留意すべき事項

〈観点Ⅰ〉学校の教育目標、重点目標等の設定・共有

- プラン冊子(P12~P13)
 ○育成を目指す資質・能力
 ⇒地域の方から見て明確なものに設定
 ○重点目標、重点的取組及び指標の設定
 ⇒重点目標達成に近づく各教職員の取組や子どもの姿に現れるもの
 ○「学校評価の4点セット」の策定プロセス
 ⇒全教職員が関与して見直し

〈観点Ⅱ〉短期及び年度を跨いだ
 検証・改善の実施

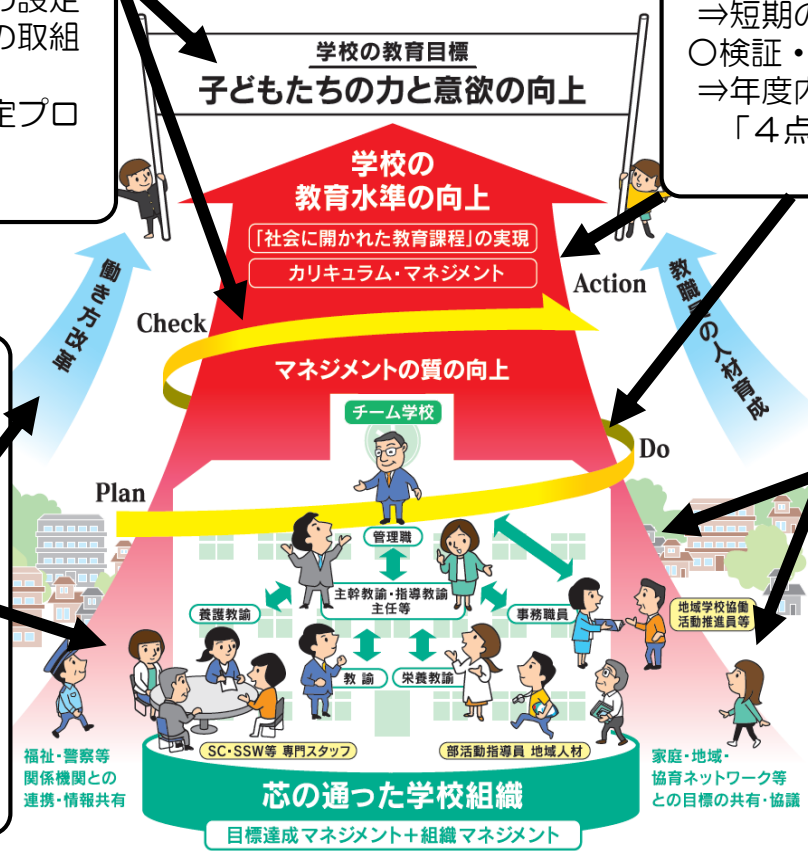
- プラン冊子(P14)
 ○校内の検証・改善サイクルと学校運営協議会等の時期・テーマを連動させる。
 ○効果的・効率的な検証・改善にむけて
 ⇒短期の検証・改善を行う際の視点の整理
 ○検証・改善結果を教育課程の改善に反映
 ⇒年度内中の教育課程の編成や翌年度の「4点セット」案の策定に活かす

〈観点Ⅲ〉主任等が効果的に機能する学校運営体制

- プラン冊子(P14~P16)
 ○主任等の活用
 ○学校における働き方改革の推進
 ⇒学校運営を効果的・効率的に行うための業務改善の必要性
 ○①専門性発揮のための必要体制整備
 ②教職員と専門スタッフに必要な情報共有の日常化

〈観点Ⅳ〉学校・家庭・地域による目標の協働達成

- プラン冊子(P16~P17)
 ○学校・家庭・地域の代表者との取組内容の共有・熟議
 ○全体的な負担軽減・働き方改革の推進
 ○学校・家庭・地域の役割分担の見直し



第3ステージの方向性 学校における働き方改革 × 地域とともにある学校

観点Ⅰ〔学校の教育目標、重点目標の設定・共有〕のポイント

《重点目標》
 学習指導要領、県、市町村の重点方針等を踏まえて、学校の教育目標の達成に向けた真に重点的なものに設定します。

《達成指標》
 ・重点目標が目指している成果を把握するための指標です。児童生徒の変容が反映された姿として設定しましょう。
 ・取組指標になっていたり、重なっていたりしないように留意しましょう。
 ・できるだけ学力テスト等客観的データを用いて数値化し、検証可能な指標に設定しましょう。

関連を図ります

育成を目指す資質・能力三つの柱

学校の教育目標:

育成を目指す資質・能力	重点目標	達成指標	重点的取組	取組指標
知識・技能の習得				
思考力・判断力・表現力等の育成				
学びに向かう力、人間性等の涵養				
働き方改革の推進				

《育成を目指す資質・能力》
 ・各学校で特に育成を目指す教科横断的に各教科等の基盤となる資質・能力を1～2程度示します。

《重点的取組》
 ・重点目標達成につながる具体的な取組内容のことで、※指導場面を具体的に示し、簡潔に記載します。

《取組指標》
 ・重点的取組をより具体化した内容です。「誰が、何を、どのぐらいの頻度で」を記載します。

◎学力向上、体力向上、いじめ・不登校等対策の側面についても、育成を目指す資質・能力の三つの柱のうち重点をおくものを示します。



【観点Ⅰ 取組のポイント①】
 ◎第3ステージの基本的な考え方
 1. 学校の教育目標で育成を目指す資質・能力については、学校運営委員会等で熟議を行い、適時、見直します。
 2. その年度の重点目標については、育成を目指す資質・能力の三つの柱で設定します。
 3. 検証・改善は、重点目標ごとに行います。

【観点Ⅰ 取組のポイント②】
 ○学校が抱える課題や目指す目標、取組の方向性を全教職員が共通理解し、教職員間の目指す方向性を揃えましょう。そこで大切になるのは、策定プロセスの見直しです。管理職の下、主任等を中心にそれぞれの重点目標の達成に関わる全教職員が関与するような工夫を行うことが求められています。

1. 学校マネジメントの深化

事例①

【観点1】「学校教育目標、重点目標等の設定・共有」

取組実践校: 臼杵市立市浜小学校 (児童数437名 18学級)

※学校運営協議会設置校

「資質・能力の3つの柱を踏まえた教育目標、重点目標等を全教職員で共有する工夫」

- ①データ分析や課題の整理を全員で組織的に行っている。
- ②教職員間のベクトルを目標管理面談等を活用して揃えている。

具体的な取組① マトリックス表で整理・分析する



重点目標	めざす子ども像		
	かしこい子(知)	やさしい子(徳)	たくましい子(体)
知識及び技能の習得	全国・県学力調査で、3年連続平均を上回っている。		
思考力、判断力、表現力等の育成	本校の児童の課題	本校の児童の課題	
学びに向かう力、人間性等の涵養			本校の児童の課題



国や県調査等の客観的なデータを使って児童の実態を明らかにする。

3つの資質・能力で整理し、重点目標等に反映

今後に向けて

- i) 新学習指導要領で求められている知識・技能（特に活用できる概念にしていく）、学びに向かう力（特にメタ認知に関するもの）の現状を分析するためのデータの検討。
- ii) 出された課題を、「重要度」と「難易度」で収束させていく。

具体的な取組②-1

目標管理面談の活用

〇年3回の内、1回目は重点目標ごとのプロジェクトチームメンバーでの集団面談。

【メリット】

3つの重点目標を達成するために、組織（市浜小学校）の一員として、何をしなければならないかを理解させることができる。

具体的な取組②-2

「逆報・連・相」を大切にした密度の濃い共有

1. 校長⇔教頭⇔主幹教諭で相談

- Step 1 校長がやってみせる。
- Step 2 管理職と主幹教諭が語りこむ。
- Step 3 主幹教諭がやってみる。
- Step 4 取組への評価を行う。
- Step 5 主体的にミドルリーダーが、学校評価の4点セットの作成等を行う。

2. 主幹教諭→各主任に相談→プロジェクトチームで検証・協議

各主任は質問されることで現状把握が深まり役割も意識する。職員はプロジェクトチーム会議を通して理解が深まる。

相互の「逆報・連・相」で共有化

その結果、ミドルリーダーが主体的に判断し役割と責任を果たそうとする姿が見られるようになった。

1. 学校マネジメントの深化

【観点1】「重点目標と進捗状況を教員・子ども・保護者・地域で常時共有」

取組実践校：杵築市立豊洋小学校（児童数56名 6学級）

※学校運営協議会設置校

事例②

「育てたい子ども像の可視化」

- 数値目標に加え、成長を表した写真、進捗状況の可視化
- 3月のゴールイメージを階段踊り場に掲示

具体的な取組①

ゴールとプロセスの視覚化

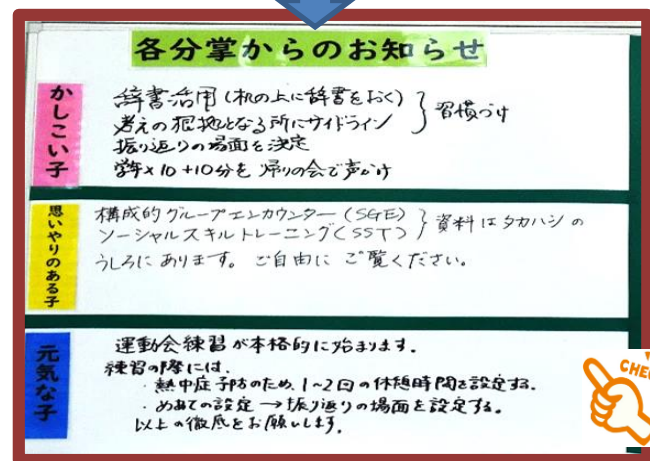


具体的な取組②

各分掌と子ども像の関連

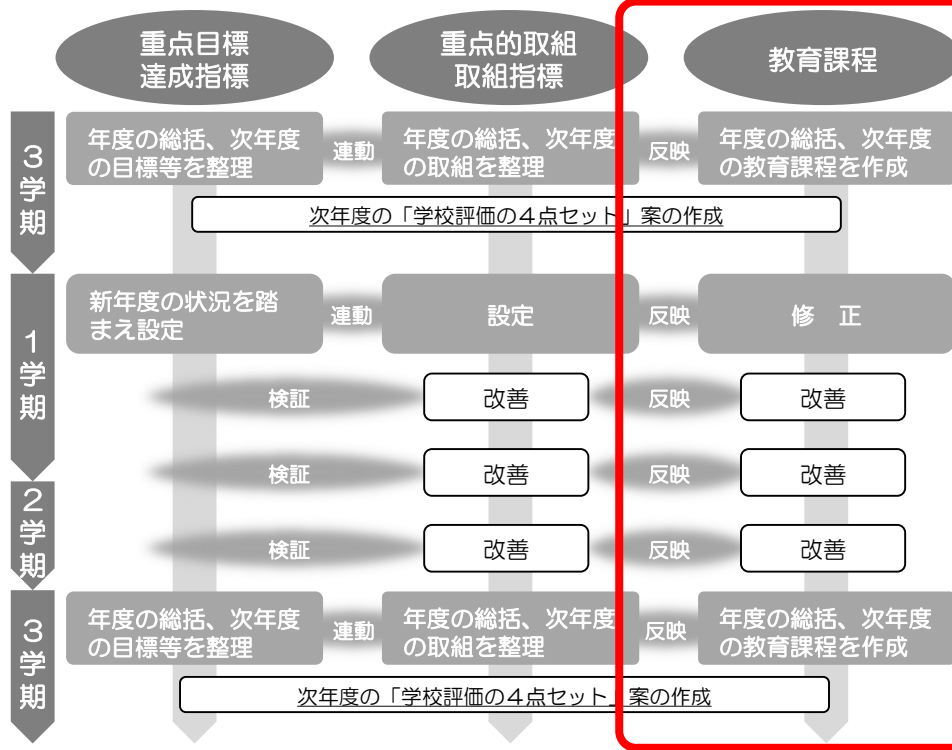
- 教員の意識した取組につなげるため、職員室に「お知らせ掲示板」を設置

全職員で指導内容の常時共有



「知・徳・体」のそれぞれを資質・能力の3つの柱で捉え、バランスを図っている

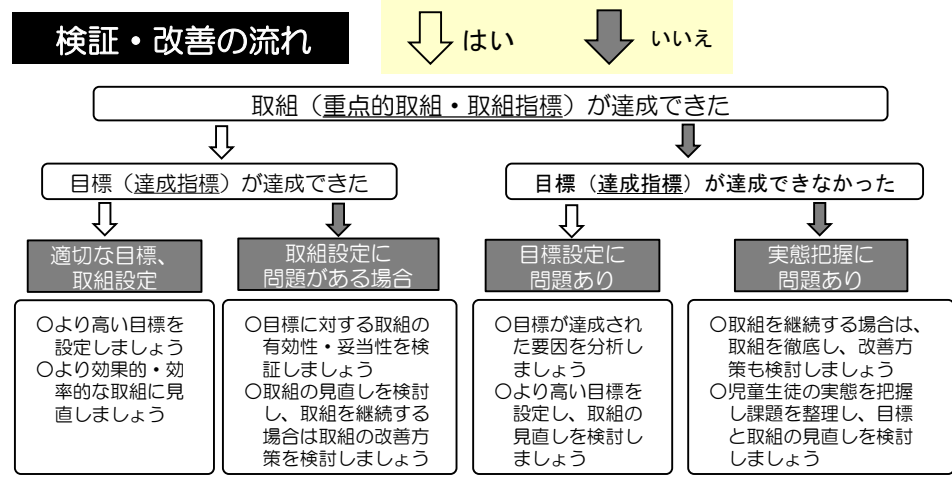
「学校評価の4点セット」を知・徳・体の育てたい子ども像で表し、資質・能力ベースで捉え直して、学年末のゴールイメージに近づく過程を具体的な子どもの姿（写真）で掲示。子ども、保護者、地域の方が見て、共有できる。



- 学校運営協議会の熟議内容 (年3~6回開催する場合)
- [3学期 (2~3月)]
 - ◆ 1年間の取組の総括、検証・改善等
 - ◆ 育成を目指す子ども像と資質・能力
 - ◆ 次年度の「学校評価の4点セット」案
 - ◆ 次年度の年間活動計画案（行事等の精選・見直し、役割分担の見直し含む）
 - [1学期 (4~5月)]
 - ◆ 育成を目指す子ども像と資質・能力の確認
 - ◆ 「学校評価の4点セット」
 - ◆ 年間活動計画・活動内容
 - ◆ 各取組の進捗管理、検証・改善
 - [夏期、2学期 (7~12月)]
 - ◆ 各取組の進捗管理、検証・改善

【観点Ⅱ 取組のポイント①】
 家庭・地域と協働して、年度を跨ぐ持続的・発展的な教育活動の質の向上に向けて、以下のことに取組むことが必要です。

- 校内の検証・改善サイクルと学校運営協議会の開催時期・熟議内容の連動
- 1年間の検証・改善の成果・課題を基にした次年度の教育課程編成への取組の反映（カリキュラム・マネジメント）
- 次年度「学校評価の4点セット」案を年度末までの策定



【観点Ⅱ 取組のポイント②】
 重点的取組、・取組指標をより有効かつ妥当な取組への改善に向けて以下のことに取り組むことが必要です。

- 学習指導要領解説、全国学力・学習状況調査の結果・解説等の各種調査、全国的な先進事例、校内研究等のエビデンスの確保
- 児童生徒・保護者等を対象としたアンケート調査、テスト結果等の短期の検証・改善を行う際の視点の整理

教育課程の改善（カリキュラム・マネジメントの充実）

1. 学校マネジメントの深化

【観点II】「カリキュラム・マネジメントの充実に向けた検証・改善結果の教育課程への反映」

取組実践校：中津市立南部小学校（児童数133名 8学級）

「児童の成長に応じた着実な検証・改善を行う学年部による『ワイガヤ』の取組」

事例③

- ①セルフチェックを毎週行い、学校行事等の相関関係から次年度の教育課程の改善に活用している。
- ②「取組状況の確認」、「検証」及び「改善方策」を学年部による『ワイガヤ』で行うことで人材育成に生かしている。

具体的な取組① セルフチェックの実施と継続性や行事等との関連を教務主任が把握

中津市立南部小学校 校長 山口 哲郎

令和2年度 学校評価の4点セットと進捗状況

■学校の教育目標：よりよい生活を目指して、自分たちで課題をとらえ、協働して学び続ける児童の育成 【校訓】 自学 自発 自尊

育成を目指す資質・能力： 他者と協力する態度 問題発見・解決能力

具体的な取組②

学年部で「確認・検証・改善」を協議

重点目標	達成指標	重点的取組	取組指標	担当	取組状況の確認						達成状況の確認						改善方策																																									
					8月26日	9月2日	9月9日	9月16日	9月30日	1年	2年	3年	4年	5年	6年																																											
【未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成】	○中津市学力調査で各学年の正答率を、目標値より基礎7ポイント、活用5ポイント上回る（単元テストで80点以上を超える児童の割合を80%以上にする） ○「授業中友だちとの話し合い活動を通して考えが深まった」と答える児童を80%以上にする。	学校 新大分スタンダードを基盤とした質の高いテンポのよい授業 話し合いが深まる工夫をした問題解決的な授業	児童が学習活動の流れを理解し、一日1回以上学習リーダーが授業の司会進行をすることができる。 週2回以上は、話し合いをするための思考型をはっきりさせた授業をし、学年会で交流を回す。	実施率 主 実施率 主 実施率 主	<table border="1"> <tr> <th>54点未満</th> <th>8月26日</th> <th>9月2日</th> <th>9月9日</th> <th>9月16日</th> <th>9月30日</th> </tr> <tr> <td>セルフチェックのポイント</td> <td>3.6</td> <td>3.6</td> <td>3.6</td> <td>3.3</td> <td>3.6</td> </tr> </table>						54点未満	8月26日	9月2日	9月9日	9月16日	9月30日	セルフチェックのポイント	3.6	3.6	3.6	3.3	3.6	<table border="1"> <tr> <th>単元テスト</th> <th>80点以上</th> <th>80点未満</th> <th>80点以上</th> <th>80点未満</th> <th>80点以上</th> <th>80点未満</th> </tr> <tr> <td>算</td> <td>00</td> <td>00</td> <td>00</td> <td>00</td> <td>00</td> <td>00</td> </tr> <tr> <td>国</td> <td>00</td> <td>00</td> <td>00</td> <td>00</td> <td>00</td> <td>00</td> </tr> <tr> <td>理</td> <td>00</td> <td>00</td> <td>00</td> <td>00</td> <td>00</td> <td>00</td> </tr> </table>						単元テスト	80点以上	80点未満	80点以上	80点未満	80点以上	80点未満	算	00	00	00	00	00	00	国	00	00	00	00	00	00	理	00	00	00	00	00	00	【9月】単元テストで80点以上を超える児童の割合（%） 【1学期の児童アンケート】	(低)算数の宿題のまるつけを協力してくれる家庭が増えた。 学習リーダーは、算数の時間を中心にできている。 (中)課題を子どもたちで作ることができるようになってきた。 (高)教師の意識づけとしての思考型の提示はできている。児童も意識している。「今日はぎまりを見つけるんよね」など
					54点未満	8月26日	9月2日	9月9日	9月16日	9月30日																																																
					セルフチェックのポイント	3.6	3.6	3.6	3.3	3.6																																																
単元テスト	80点以上	80点未満	80点以上	80点未満	80点以上	80点未満																																																				
算	00	00	00	00	00	00																																																				
国	00	00	00	00	00	00																																																				
理	00	00	00	00	00	00																																																				
(低)2年生は算数で学習リーダーが活動している。1年生はこれから行っていく。 (中)課題を自分たちでたてられるようになった。 (高)他教科へ広げている。	(低)学習リーダーは、算数の時間を中心にパタン化できる部分を揃えていく。1年生は、運動会後に学習リーダーを始める。 (中)子どもたちによる課題づくりの定着を図る。思考型と言葉をわざとできるだけ関連づける。 (高)学習リーダー進行の教科を広げる。用いる思考型について、児童と考え、児童にも意識づける。																																																									
(低)2年生は算数で学習リーダーが活動している。1年生はこれから行っていく。 (中)課題を自分たちでたてられるようになった。 (高)他教科へ広げている。	(低)学習リーダーは、算数の時間を中心にパタン化できる部分を揃えていく。1年生は、運動会後に学習リーダーを始める。 (中)子どもたちによる課題づくりの定着を図る。思考型と言葉をわざとできるだけ関連づける。 (高)学習リーダー進行の教科を広げる。用いる思考型について、児童と考え、児童にも意識づける。																																																									
		家庭 家庭でいいところを見つけてほめる活動の実施	1日1回は、子どものよいところをほめる(親学のすすめアンケート)	教務主任	<table border="1"> <tr> <th>54点未満</th> <th>8月26日</th> <th>9月2日</th> <th>9月9日</th> <th>9月16日</th> <th>9月30日</th> </tr> <tr> <td>セルフチェックのポイント</td> <td>2.9</td> <td>2.9</td> <td>2.7</td> <td>2.8</td> <td>2.6</td> </tr> </table>						54点未満	8月26日	9月2日	9月9日	9月16日	9月30日	セルフチェックのポイント	2.9	2.9	2.7	2.8	2.6	<table border="1"> <tr> <th>単元テスト</th> <th>80点以上</th> <th>80点未満</th> <th>80点以上</th> <th>80点未満</th> <th>80点以上</th> <th>80点未満</th> </tr> <tr> <td>算</td> <td>00</td> <td>00</td> <td>00</td> <td>00</td> <td>00</td> <td>00</td> </tr> <tr> <td>国</td> <td>00</td> <td>00</td> <td>00</td> <td>00</td> <td>00</td> <td>00</td> </tr> <tr> <td>理</td> <td>00</td> <td>00</td> <td>00</td> <td>00</td> <td>00</td> <td>00</td> </tr> </table>						単元テスト	80点以上	80点未満	80点以上	80点未満	80点以上	80点未満	算	00	00	00	00	00	00	国	00	00	00	00	00	00	理	00	00	00	00	00	00	【1学期の児童アンケート】	(低)算数の宿題のまるつけを協力してくれる家庭が増えた。 学習リーダーは、算数の時間を中心にできている。 (中)課題を子どもたちで作ることができるようになってきた。 (高)教師の意識づけとしての思考型の提示はできている。児童も意識している。「今日はぎまりを見つけるんよね」など
54点未満	8月26日	9月2日	9月9日	9月16日	9月30日																																																					
セルフチェックのポイント	2.9	2.9	2.7	2.8	2.6																																																					
単元テスト	80点以上	80点未満	80点以上	80点未満	80点以上	80点未満																																																				
算	00	00	00	00	00	00																																																				
国	00	00	00	00	00	00																																																				
理	00	00	00	00	00	00																																																				
(低)思考型はあまり使えていない。 (中)思考型はあまり使えていない。 (高)どのような思考型を用いるのか、児童が考えることも	(低)学習リーダーは、算数の時間を中心にパタン化できる部分を揃えていく。1年生は、運動会後に学習リーダーを始める。 (中)子どもたちによる課題づくりの定着を図る。思考型と言葉をわざとできるだけ関連づける。 (高)学習リーダー進行の教科を広げる。用いる思考型について、児童と考え、児童にも意識づける。																																																									
(低)思考型はあまり使えていない。 (中)思考型はあまり使えていない。 (高)どのような思考型を用いるのか、児童が考えることも	(低)学習リーダーは、算数の時間を中心にパタン化できる部分を揃えていく。1年生は、運動会後に学習リーダーを始める。 (中)子どもたちによる課題づくりの定着を図る。思考型と言葉をわざとできるだけ関連づける。 (高)学習リーダー進行の教科を広げる。用いる思考型について、児童と考え、児童にも意識づける。																																																									

「学習リーダー」の導入時期を検討する低学年部

主体的な「課題設定」の仕方を協議する中学年部

板書写真から「考えるための技法」の活用方法を模索する高学年部



児童の発達段階や実態に応じて、「4点セット」の検証・改善を協議

1. 学校マネジメントの深化

【観点II】「短期及び年度を跨いだ検証・改善の実施」

事例④

取組実践校: 佐伯市立宇目緑豊中学校(生徒数60名 3学級)

※学校運営協議会設置校

「全体とチームとの往還をつくり出す検証・改善の工夫」

- ①年間を見通した、全体とチームの往還による検証・改善の実施
- ②達成状況確認の方法の具体を予め共有することによる確実な検証の実現

具体的な取組① 年間の見通しを共有

- ◇年度当初に、検証・改善に係る予定を確認し、チームリーダーを中心に、全教職員で見通しを共有
 - ・年間5回の検証・改善時期を年間・行事予定に位置付け、全員で早めに確認
 - ・学校運営協議会の開催時期との連動を意識した時期を設定

◎取組①・②により、いつ、誰が、何をすることが明確に。

- ・若手を含む全教職員が見通しを持つことで、チームリーダーが中心となって、主体的に検証・改善を進めることが可能

具体的な取組② 検証するための様式を工夫

実施率の取組指標	取組指標に対する取組状況の確認	達成指標に対する達成状況の確認	達成指標・取組指標の妥当性を検証	改善方策																																			
		○2学期期末テストにおいて ・得点7割以上の生徒60%以上 <table border="1"> <tr> <td>国語</td> <td>社会</td> <td>数学</td> <td>理科</td> <td>英語</td> <td>平均</td> <td>全平均</td> </tr> <tr> <td>1年</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2年</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3年</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>平均</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> ○達成率%	国語	社会	数学	理科	英語	平均	全平均	1年							2年							3年							平均								
国語	社会	数学	理科	英語	平均	全平均																																	
1年																																							
2年																																							
3年																																							
平均																																							
		・得点3割以上の生徒90%以上 <table border="1"> <tr> <td>国語</td> <td>社会</td> <td>数学</td> <td>理科</td> <td>英語</td> <td>平均</td> <td>全平均</td> </tr> <tr> <td>1年</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2年</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3年</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>平均</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> ○達成率%	国語	社会	数学	理科	英語	平均	全平均	1年							2年							3年							平均								
国語	社会	数学	理科	英語	平均	全平均																																	
1年																																							
2年																																							
3年																																							
平均																																							

◇達成状況確認の具体を予め設定

全体・チームの往還による検証・改善

全体

各チームで確認した達成状況・取組状況等をもとに各チームの検証・改善の視点を全体で確認

チーム

各チームで、「検証・改善プロセス」に沿って検証し、改善方策を検討

チーム

※管理職・教務主任が指導・助言し、必要に応じて、チームで再検討

全体

各リーダーが取りまとめた検証内容や改善方策について全体で協議し、改善方策を確定

全体

教務主任が新しい4点セットに取りまとめ、全体で共通理解し、取組へ

1. 学校マネジメントの深化【観点II】「短期及び年度を跨いだ検証・改善の実施」

事例⑤

取組実践校：佐伯市立明治小学校(児童数173名 7学級)

※学校運営協議会設置校

「学校の教育目標の達成に向けた、短期の検証・改善による授業改善の工夫」

- 年間を通じたPDCAサイクルを土台に小さいサイクルと個人・相互チェックの仕組みを構築
- 個々が取り組む授業改善の内容を具体化・焦点化
- 教科等横断的な学習の充実

PLAN

①R1・4月当初
・学校の教育目標と目指す授業像を共有
「新大分スタンダード」(めあて・課題・ひとり学び・交流・まとめ・振り返り)の徹底を確認

DO

◇個人・相互で週・月ごとに取組チェックできるツールの使用
・「授業改善ルーブリック」の結果を集計・交流

CHECK

②1学期末の検証・改善
□全員で目指す力と授業のつながりを再確認
□児童の変容・現状と取組の効果・課題, 解決方途を協議
※児童の変容や取組状況を見える化し, 学校内外で共有

ACTION

■「学びの主体性」を高めるために, 取組を授業の「課題の在り方」に焦点化

DO

◇個人・相互で週・月ごとに取組チェックできるツールの使用
・「授業改善ルーブリック」の項目を更新
◇授業で使った「課題」を職員室内に掲示し, 共有・交流

CHECK

③2学期末の検証・改善
□授業改善の進展と児童の変容・現状を重ねて分析
□次の課題や解決に向けた取組の焦点について協議
※児童の変容や取組状況を見える化し, 学校内外で共有

ACTION

■「考え, 伝え合う」姿を高めるために, 取組を「板書の構造化」に焦点化

DO

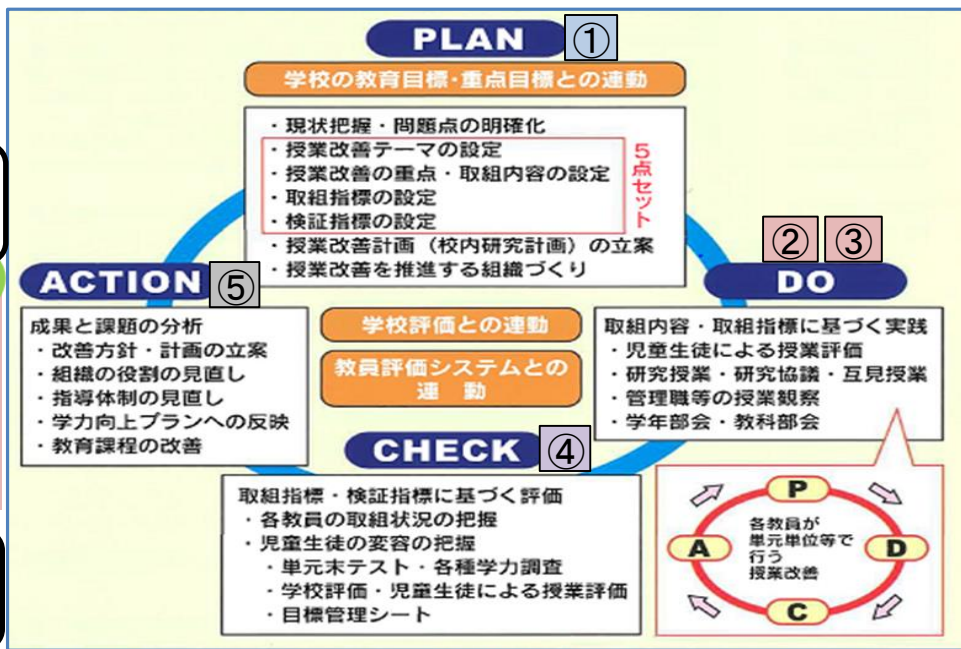
◇個人・相互で週・月ごとに取組チェックできるツールの使用
・「授業改善ルーブリック」の項目を再度更新
◇研修等で板書写真を交流

CHECK

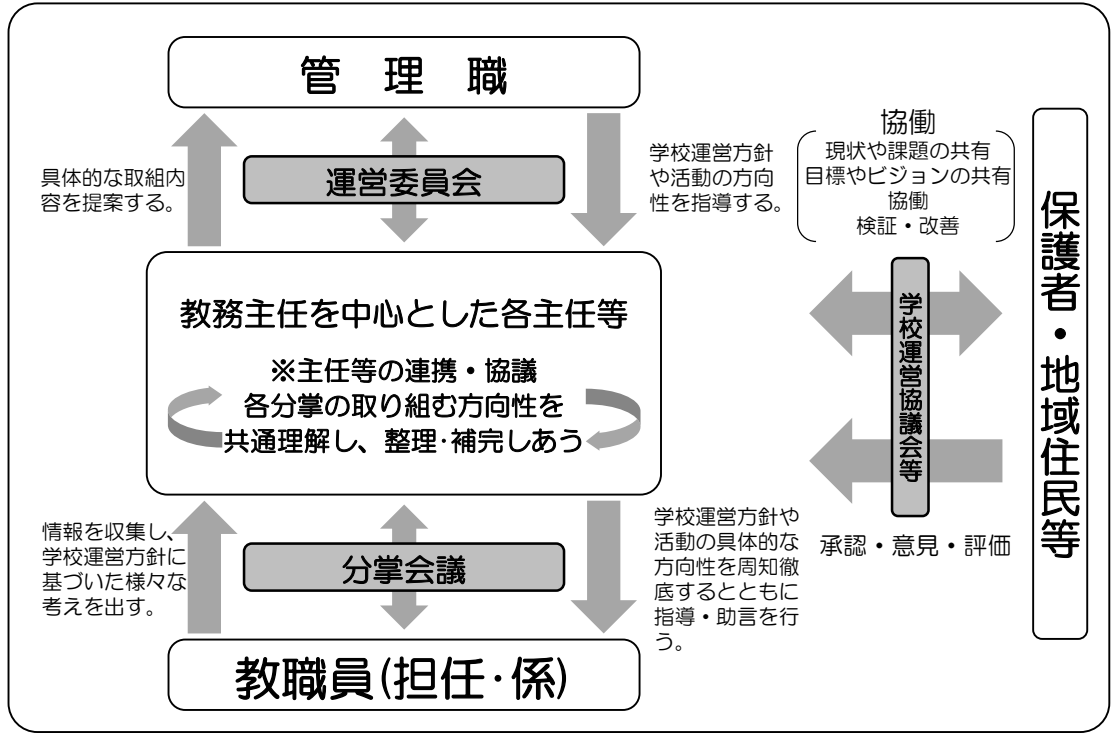
④3学期の検証・改善
・3学期取組と合わせ, 年間取組の効果と課題を児童の変容・現状を基に分析

ACTION

⑤次年度に目指す姿・解決する課題, 授業改善の重点等を協議
R2の目指す姿は①を継承し, 「思考・判断・表現(書くこと)」の力を高める方向へ
↓
・国語科と生活科・総合的な学習の時間の関連を注視
・単元配列表の活用, 「書いて表現すること」を重視
・次年度向けプランに反映



検証・改善体制



【観点Ⅲ 取組のポイント①】
 重点目標の達成に向けた「検証・改善体制」の中で、以下の役割と責任が主任等によって果たされているかを確認する必要があります。

- ・運営委員会での具体的な取組の提案
- ・教職員に対する校長の運営方針の周知、取組の進捗管理等での指導・助言
- ・他の学年・分掌主任等との連携・協議

等

【観点Ⅲ 取組のポイント②】
 日常的な情報共有が十分に行われるために、以下のことに取り組むことが必要です。

- 養護教諭・栄養教諭、学校事務職員等の少数職種の教職員、SC・SSWや部活動指導員等の専門スタッフ等がその専門性を発揮するための必要な体制づくり
- 福祉・医療・警察等の関係機関との連携強化のため、各種校内委員会やケース会議に少数職種の教職員や専門スタッフが定期的に参加できる体制づくり

※その際、関係者間で時間を合わせることができない間の情報共有の方法を工夫するなど、教職員と専門スタッフの相互にとって必要十分な情報を日常的に共有する環境を整えておくことも大切です。

1. 学校マネジメントの深化

【観点Ⅲ】 「主任等が効果的に機能する学校運営体制」

事例⑥

取組実践校：豊後大野市立千歳中学校（生徒数39名 3学級）

※学校運営協議会設置校

全教職員による学校経営参画

取組① 『分掌経営案・学年経営案・教科経営案』を4点セット化することで、連動させる。

取組② 目標管理シートの共有 ⇒ 管理職・主要主任が同じベクトルで指導・助言

⇒効果として、学校目標、学年目標、個人の目標に一貫性を保持することができている。

具体的な取組①

具体的な取組②

- 全教職員が作成にかかわる
- 3つの「4点セット」
- 全教職員による「主体的な学校経営」

- ◇「分掌経営案」「学年経営案」「教科経営案」
- ・3つの「経営案」を4点セット化 → 連動
- ・全教職員が関わりながら作成 → PDCA

- 各主任が管理職と各職員の目標を共有
- 同じベクトルの「効果的な指導・助言」

4点セット目標管理評価シート①(12年4月1日～9月30日まで) <個人評価用>

氏名	役割	目標項目	現状の数値	目標数値	達成率	達成率の数値
〇〇〇〇	校長	〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇	H 30	〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
〇〇〇〇	副校長	〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇	H 45	〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
〇〇〇〇	教頭	〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇	H 30	〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

学校の教育目標

「分掌経営案」
学校評価の4点セット

連動

「学年経営案」
学年経営の4点セット

「教科経営案」
教科経営の4点セット

目標管理シート

「4点セット
目標管理評価シート」

◇個人の目標と連動

- ・全職員（臨時職員も含む）が、分掌経営・学年経営・教科経営の4点セットと連動するように目標管理シートを作成

◇「4点セット目標管理評価シート」

- ・全職員の目標管理シート内容をまとめ一覧にしたもの
- ・管理職と各主任で把握し共通理解

1. 学校マネジメントの深化

【観点Ⅲ】「主任が効果的に機能する学校運営体制」

事例⑦

取組実践校：日田市立北部中学校（生徒数260名 10学級）

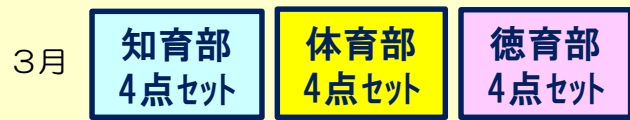
※学校運営協議会設置校

「学年や教科の枠を越えた組織マネジメントの推進」

- 「学校評価の4点セット」の策定及び取組の進捗管理、検証・改善、授業改善、生徒の指導、若手教員の人材育成等を、学年や教科の枠を越えた組織で推進している。
- 運営委員会の定期的な位置付け（毎月第3水曜日は、検証会議の実施）

教務主任と部会主任を中心とした取組

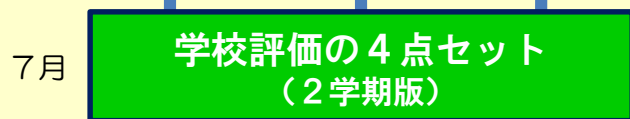
① 4点セットの策定及び進捗管理、検証・改善



取組の整理・統合



※検証会議を毎月第3水曜日実施。
※分析結果や改善内容等を記録に残す。



② 若手教員の人材育成

3部会（知育・徳育・体育）が持ち回りでOJTを計画・実施
(毎月第2月曜日)

※部活動をカットし、研修の時間を生み出す。



(研修の一例) 体育部実施
「ストレス・マネジメント研修」

研究主任と教科部長を中心とした取組



学年や教科の枠を越えた授業改善

- 数学（毎週水曜4限）
- 英語（毎週金曜4限）
- 合同部会（2名以下の教科担当が協働し、板書の見合い等を実施、毎月第2水曜日）

学年主任を中心とした取組



クラス教科担当者による学年の枠を越えた学級経営

- 授業に入る全クラスについての情報共有や学習や生徒指導に係る相談
(1クラスにつき学期1回以上)

1. 学校マネジメントの深化

【観点Ⅲ】「主任が効果的に機能する学校運営体制」

※学校運営協議会設置校

取組実践校：臼杵市立佐志生小学校（児童数24名 4学級）

「小規模校における主任制度の充実と運営委員会の効果的な実施」

- ①小規模校だからこそ、主任制度の充実を目指して「教務主任」の役割と責任を重要視している
- ②組織的に学校運営をするため、会議に合わせて場の工夫をしている

具体的な取組① 管理職による指導・支援を踏まえた役割と責任

i) 校長の役割

ビジョン、ミッション

- 各主任にミッションを与える。
- チームをリードする人材を「教務主任」に任命
- 教務主任は1学年担任（全員担任、時数を考慮）
- 「教務主任」に対し、OJTを実践し、課題解決への取組を確実に進める。

ii) 教頭の役割

見通し、フォロー

- 4点セットや各種プランの連動を点検させる。
- 学校の1年間の行事等の予定を、時間軸と空間軸で捉えさせ見通しを持たせる。
- 不明な点を質問 ⇒ 対話が生まれる

カウンセリングマイ
ンド的な関わり

iii) 教務主任の役割と責任

- 進捗管理
 - ・「4点セット」と「各種プラン」の進捗管理
 - ・教育課程の検証、作成の指導
- 教職員に対する指導・助言
 - ・学力向上対策に係る指導（「めあて」「振り返り」を月1回進行管理）
 - ・率先した授業改善の提案
- 分掌主任等との連携
 - ・研究主任と連携し、学校課題解決に向けた取組を推進

具体的な取組② 運営委員会の効果的な実施

メンバーと内容で場所を変えて意識改革

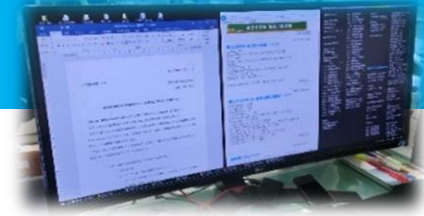
会議	参加者	内容	場所
運営委員会	管理職、教務	課題解決の進捗管理	校長室
部会・検証会議	管理職、教員	進捗管理、今後の方向性	校長室
職員会議	全職員	連絡・全体共有事項	職員室

部会・検証会議と職員会議の参加者は大きく変わらないが、あえて場所を変えて、会議の意義や主旨を意識させる。

1. 学校マネジメントの深化

【観点Ⅲ】「ICTの活用による業務の改善」

事例⑨



※学校運営協議会設置校

取組実践校: 豊後大野市立緒方小学校(児童数121名 7学級)

校務支援ソフトの効果的活用 ⇒ 取組① 情報共有と会議時間短縮
取組② 最新の児童情報の共有

具体的な取組①

緒方小学校 職員用掲示板

11月6日(金)努力遠足について

11月18日(水)職員会議の議事録

読書の日について

◎校務用PC起動 ⇒ 「掲示板」起動
必ず全職員が確認!

- I. 職朝を廃止 ⇒ 時間の有効利用
- II. 文字情報のためいつでも確認 ⇒ 聞き間違い・聞き漏らし等なし

◎会議の議題を事前に共有

- I. 担当者名(A~J)の明示で責任の明確化
- II. 見通しを持って早めの提案準備
- III. 必要ファイルにリンクをつけ、ダウンロード可
- IV. 過去にもさかのぼり、前年度の内容を閲覧・参考にすることも可

具体的な取組②

職員設定

令和3年度準備

写真台帳

在籍一覧

出欠席

- 出席簿
- 出欠状況
- 入力状態一覧

成績

- 補助簿
- テスト入力
- 評価・評定作成
- テスト集計

生活・記録

- 日々の様子
- 生徒指導
- 児童の履歴

通知表

- 通知表レイアウト
- 学級担任用成績入力
- 教科担任用成績入力

表示年度

令和2年度 令和3年度 令和4年度 令和5年度

事例登録

新しい事例へ

1/4

田嶋さん情報

日付 2020/04/04 登録者

公開範囲 全公開

児童の様子

日付 2020/04/04 登録者

公開範囲 全公開

母より電話

◎校務支援システム「生活・記録」の活用

- I. 生徒指導の記録を指導者が逐次入力
- II. 全職員がいつでも共有することが可能
- III. 蓄積されたものについても随時閲覧が可能
- IV. 日々の様子については、中学校へ引き継ぎ可能

取組実践校: 由布市立挾間小学校(児童数584名 22学級)

※学校運営協議会設置校

「ICTを活用した効率的な授業技術の共通理解と若手育成のしくみづくり」

- 自校の授業技術に関する動画を撮影し、年度はじめの校内研修で共通理解を図っている。
 - ・異動して間もない教職員だけでなく、若手教員のスキルアップの大きなヒントとなっている。
 - ・取り入れたい授業技術ごとにコンパクトに編集することで、短時間に効率よく学ぶことができる。

具体的な取組 授業動画を活用し、コンパクトにポイントを共有する校内研修の実践

Chapter 1 《授業のはじめ》 30秒×3名

- ・授業の「はじめ」と「おわり」
- ・意識の切り替え



Chapter 4 《特別な教育的支援を必要とする子どもとのかわり》 60秒×1名

- ・子どもの困りに応じた対応
- ・状況に応じた子どもとの関わり



Chapter 5 《黒板はみんなの考えが集まる場》 55秒×1名

- ・協働的な学びの場づくり



Chapter 2 《注意の仕方とほめ言葉》 40秒×2名

- ・その瞬間を捉えた適切な子どもへの声かけ



動画視聴後の教員の感想や振り返り

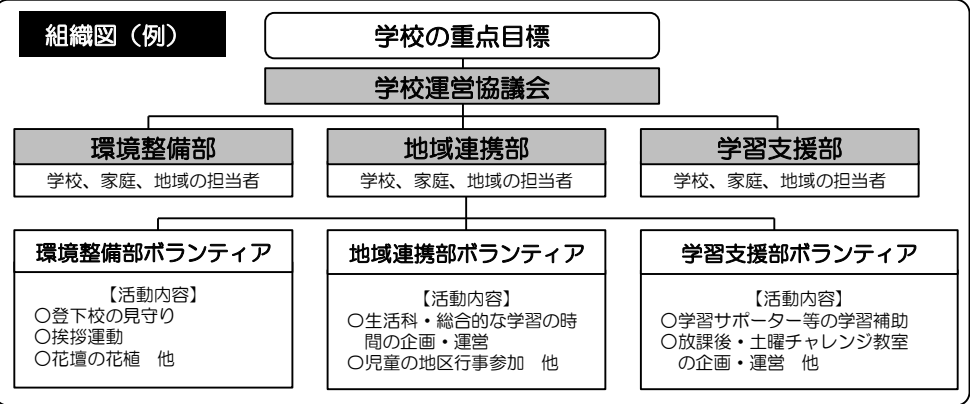
- 学習規律を定着させるための声かけ、視線、ポイントが動画を見てつかめるので、若い先生の授業技術の向上につながった。
- 学級担任をしていると他の先生の指導を見ることは難しいが、動画を通して学ぶことができるので、分かりやすく、見直すこともできるので、とてもありがたい。
- 若手の教員にとって、特別ではなく日頃から取り入れたい指導や学級経営の在り方を学べる機会となり、すぐに真似できるものばかりだった。
- 自分の引き出しを増やせた良い機会となった。

Chapter 3 《机間支援、個に応じた支援》 45秒×3名

- ・座席表の活用
- ⇒子どもの事実の記録方法
- ・一人ひとりに応じた声かけ



目標協働達成に向けたチームとしての学校運営協議会



【観点Ⅳ 取組のポイント①】
 ○焦点化・重点化した熟議等に向けて、学校運営協議会内には必要に応じて、重点目標毎の推進部会を設置することが大切です。
 ○取組をより実効性のあるものとするために、地域学校協働活動推進員等をチームに参画させて「協育」ネットワークも活用しながら、ボランティアの組織を構築することも重要になってきます。

年間スケジュール(例) ※学校運営協議会を年間3～6回開催する場合

	家庭	学校	地域
3学期	PTA役員会 1年間の取組の検証・総括	運営委員会 1年間の取組の検証・総括	自治会役員会等 1年間の取組の検証・総括
	学校運営協議会〈2～3月〉 熟議内容 ◆1年間の取組の検証・総括 ◆育成を目指す子ども像と資質・能力 ◆次年度の年間活動計画案(行事等の精選・見直し、役割分担の見直し含む) ◆次年度の「学校評価の4点セット」案		
1学期	PTA役員会 新体制で重点的取組を確認	運営委員会 新体制で重点的取組を確認	自治会役員会等 新体制で重点的取組を確認
	学校運営協議会〈4～5月〉 熟議内容 ◆育成を目指す子ども像と資質・能力の確認 ◆「学校評価の4点セット」の確認・修正 ◆年間活動計画・活動内容の確認・修正 ◆各取組の進捗管理、検証・改善		
	各家庭への周知取組の実践 ← 連絡・調整 → 取組の実践 ← 連絡・調整 → 地域への周知取組の実践		
	〈学校公開・授業参観〉学級懇談等の場において各家庭での取組や目標の達成状況、学級独自の課題について検証し取組を検討。		
PTA役員会 1学期の取組の検証・総括	運営委員会 1学期の取組の検証・総括	自治会役員会等 1学期の取組の検証・総括	
学校運営協議会〈7～8月〉 熟議内容 ◆各取組の進捗管理、検証・改善			

【観点Ⅳ 取組のポイント②】
 ○校内の検証・改善サイクルと学校運営協議会の開催時期・熟議内容の連動と年度末までの「学校評価の4点セット」案の策定が大切になります。
 ○家庭や地域全体の取組として展開していくためには、家庭や地域の各組織内で、積極的な周知と徹底の働きかけを行うことも重要となります。

2学期も「学校運営協議会 → 周知・実践 → 各組織内での検証・総括 → 学校運営協議会」のサイクルを継続していきます。



1. 学校マネジメントの深化

【観点Ⅳ】「学校・家庭・地域による目標の協働達成」

取組実践校：中津市立津民小学校（児童数5名 3学級）

教職員が入れ替わっても「子ども中心」の持続的・発展的な取組！

「家庭との『個人カルテ』共有と地域と連携した教育課程で目標協働達成」

- ①一人ひとりの児童の成長や支援を職員・家族で共有できる「短期、中期・長期」の「個人カルテ」を活用している。
- ②地域と連携した教育課程を編成し、児童が「言語能力」の大切さや伸びを実感することができる。

短期用

具体的な取組①

個人カルテ（算数科）	年
単元	領域
目標	
レディネステスト結果	点
指導・支援（手立て）	見取りの視点
（気づき・授業中等の記録）	
単元末テスト結果	知・理 考え方 その他
成果と課題	
振り返りテスト	1回目 2回目 3回目
系統表でのさかのぼり	

単元を通した
P: 個に応じた「目標設定」
D: 「手立て」や「授業の記録」
C: 単元テスト等で確認
A: 課題から次期「手立て」へ

子どもの姿から単元を構想

カルテ記入が負担とならないよう「加筆・修正」を基本とする

つまずきがある場合は「振り返りマップ」活用

3年	4年	5年
「たいせつ」のまとめ 3年 ⑥ ・話を聞いて、質問する。 ・案内の手紙を書く。 ・組み立てを考えて、報告する文章を書く。 ・段落とその中心をとらえる。 ・場面の様子や、登場人物の気持ちを想像する。 ・登場人物の変化に気をつけて読む。 <考えや気持ちを伝える言葉> (人物を表す言葉)	「たいせつ」のまとめ 4年 ⑤ ・聞きながら、メモを取るとき、手紙で気持ちを伝える。 ・事実をわかりやすく伝える。 ・筆者の考えをとらえる。 ・場面と場面のつながりを考える。 ・特別な言葉に着目する。	「たいせつ」のまとめ 5年 ・「きくこと」で理解しあう。 ・立場の違いを明確にして、計画的に話し合う。 ・説得力のある提案をする。

自分の課題に応じたプリントを選択



具体的な取組②

「言語能力」の大切さや伸びを実感する
 地域と連携した教育課程を編成

個人カルテ【中・長期】	()年 名前()	【令和2年度 6月作成】
現在の様子（子どもの実態）	目標（ゴール）	児童
指導・支援（手立て）	（学校での支援）	（成果と課題）
（家庭への支援）	（家庭への支援）	（課題）
（学校での支援）	（学校での支援）	
（家庭への支援）	（家庭への支援）	
（学校での支援）	（学校での支援）	
（家庭への支援）	（家庭への支援）	

児童の学校における成長の様子を家庭と共有

中・長期用

「学校での支援」と「家庭への支援」を学校・家庭で共有し、『子ども中心』の目標協働達成を推進



運動会での発表



ふるさとまつりでの発表

1. 学校マネジメントの深化【観点Ⅳ】

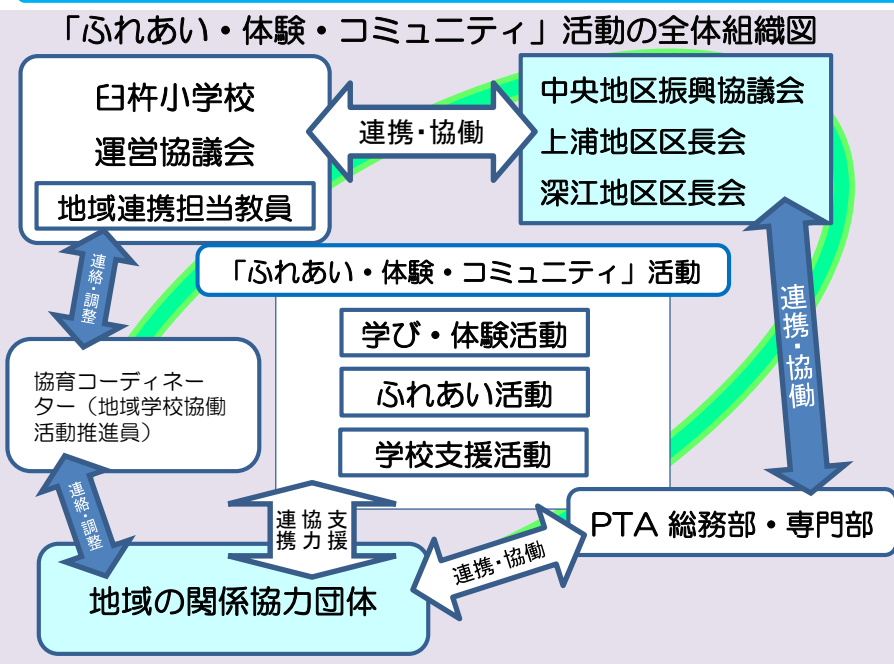
事例⑫

※学校運営協議会設置校

取組実践校：臼杵市立臼杵小学校(児童数266名 13学級)

「育成を目指す資質・能力」をもとにビジョンとエビデンスを地域と共有

○学校評価の4点セットを学校・家庭・地域の共有アイテムとして最大限活用
 ・PTA役員会 ・学校運営協議会 ・臼杵中央地区振興協議会 ・区長会 ・地域の関係協力団体
 ⇒育成すべき資質・能力をもとに目指す子ども像、学校像とエビデンスを明示し、役割を共有



具体的な取組①

共有アイテムとしての4点セットの活用

【知識及び技能の習得】 工夫して自己の命を守る児童の育成	学校	①「日常的に健康や安全に気をつけて生活することができるようになってきている」と肯定的に回答する児童90%以上(1学期末85%以上) ②「防災(コロナを含む)を意識し、自他の命を守るために意識して行動することができるようになってきている」と肯定的に回答する児童90%以上(1学期末85%以上)	①健康・安全な生活をおくるために日常生活を振り返り、よりよい生活が送れるよう意識づけを行う。 ②防災(コロナを含む)を意識し、自他の命を守るための行動・実践について日常的に振り返りをおこない、評価、励ましを行う。	①学級担任、養護教諭は健康観察・指導を毎朝行うとともに、児童が心身ともに健康・安全な生活をおくれているか点検し、必要に応じて組織的に対応するなど常に改善を図る ②防災教育コーディネーターは日常的な防災学習を進めるとともに月に1回程度「防災デー」を企画し、全校で防災教育を行い、学習や活動の振り返りから自他の命を守る実践をすすめ、防災意識を高める。
	家庭		学校だよりやPTAの会合等で学校の取組を理解し、家庭でも児童が健康・安全に生活できるようにする。	家庭は毎月1日を防災デーとして防災について話題にし、児童が健康・安全で自他の生命を大切にできるように話し合いを持つ。
	地域		学校運営協議会や学校だより等で学校の取組を理解し防災活動を中心に据えた取り組みを協働して行う。	地域は防災活動について協働して取り組む。またその様子について学期に1回以上各種行事や会議で話題にしその評価や励ましを行う

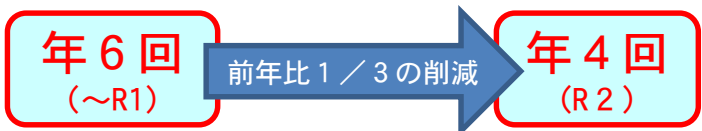
○ビジョンとエビデンスの共有
 ○家庭・地域の役割の明確化
 ○主語を「家庭は～」、「地域は～」とすることによる当事者意識の高まり

◎各種会議での共有アイテムとして「学校評価の4点セット」を最大限に活用している。成果として、目指すゴールと役割が明確になっている。

具体的な取組②

PTAの役割の見直しと取組の精選

i) PTA学級懇談会(9月、12月分をカット)



○各種活動や学級の様子は、紙面にて報告。授業参観は、別時期にある学校公開日を積極的に活用

具体的な取組③

活動をPTAから地域に移管

○「防災Dayキャンプ」
 PTA父親部会から地域振興協議会へ主催者を移管し、「地域の行事」として開催

ii) 防災スタンプラリーと避難訓練の同日開催



iii) 読書習慣の確立と家庭の参画という視点から読み聞かせ活動(ボランティア)の実施



1. 学校マネジメントの深化

【観点Ⅳ】「地域人材・地域素材を生かした交流(目標協働達成)」

事例⑬

取組実践校: 杵築市立大内小学校(児童数88名 7学級)
「地域が主体となる学校評価」

※学校運営協議会設置校

家庭・地域が交流する年間計画

○「学校評価の4点セット」の家庭・地域の評価を保護者・学校運営協議会委員が主体的に行い、当事者意識を持って学校教育に参画



学校運営協議会組織(地域)

環境安全支援部

学習支援部

「学校評価の4点セット」の地域の取組

具体的な取組

計 画

地域
(学校運営協議会)

環境安全支援部

登校時に交通指導を行うと共に、児童に対し挨拶やあたたかい声かけを行う。

学習支援部

月曜日に読み聞かせを行う。各学年の学習にボランティアやゲストティーチャーを紹介したり参加したりする。

評 価

環境安全支援部

評価S

・毎朝交通指導を行い、一人一人に挨拶や声かけを行った。また、児童の通学路の草刈りを行った。

学習支援部

評価A

・学習に沿った地域の情報や人材を学校に紹介し、連絡・調整を行った。実施予定の「動物とのふれあい」では自治協議会と連携し、児童がより多くの動物に出会えて楽しめるように計画できた。感染防止のため、読み聞かせは中止している。

地域人材・地域素材を生かした交流

杵築市立大内小学校

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年		春みつけ (草花の名前や遊び方)	土・歌作り 学うえ(幼と)	夏を楽しもう (幼と)			秋みつけ 動物とのふれあい	芋掘り(幼と) 俳句教室	幼稚園発表 会見学	昔の遊び(けん玉・こま・たこ等)		お店屋さん (1,2年 幼を招待)
2年			土歌づくり 学うえ(野飯)	俳句教室		町探検 見学引率		九九の聞き取り、学料理	九九の聞き取り、学料理			お店屋さん (1,2年 幼を招待)
3年			カフトガニ観 覧会	お店見学(Aコープ) 見学引率			消防署見学	警察署見学 俳句教室	みかん園 訪問・JAフーズ 選果場	昔の道具・暮らし	遊園地体験	
4年			カフトガニ観 覧会	俳句教室					高齢者と交流(三楽園)	杵築の特産 物伝統工芸	遊園地体験	
5年		手縫い指導	バケツ箱(組と 土をもらう) 田植え(幼と)				稲刈り体験 (幼と)	俳句教室	おにぎりパ ーティ(幼 と)		学校体験 (幼を学校 に招待)	
6年		スケッチ(実 演鑑賞)				杵築市の偉人 ミシン指導			俳句教室			
全体	交通指導 読み聞かせ	交通指導 読み聞かせ	交通指導 読み聞かせ 避難訓練(火 災、幼園と) プール監視	交通指導 読み聞かせ プール監視		交通指導 読み聞かせ 盆踊り指導	交通指導 読み聞かせ 避難訓練 (不審者)	交通指導 読み聞かせ 大内地区文 化祭参加	交通指導 読み聞かせ 俳句集 三世代交流ク ラウドゴルフ大会	交通指導 読み聞かせ 避難訓練 (地震)	交通指導 読み聞かせ 交通安全 講座	交通指導 読み聞かせ



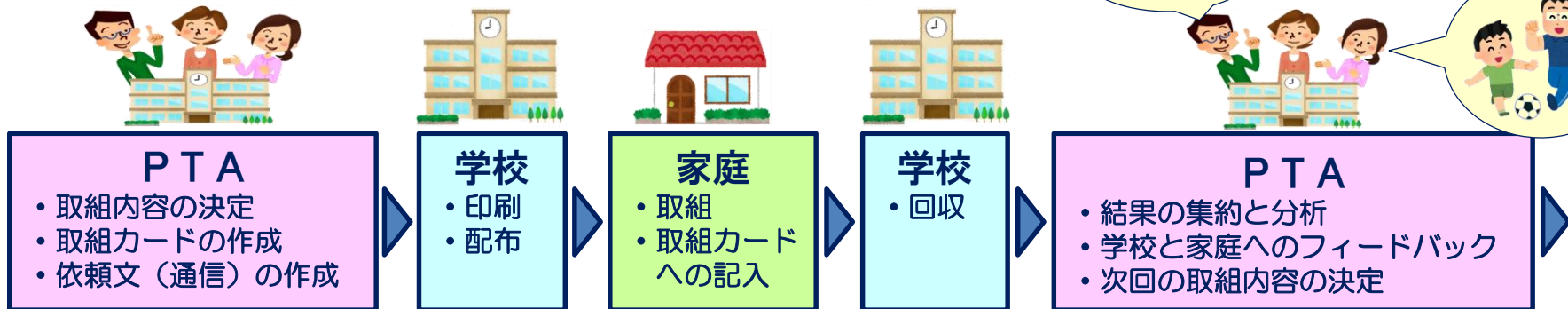
1. 学校マネジメントの深化

【観点Ⅳ】「学校・家庭・地域による目標の協働達成」

取組実践校：日田市立朝日小学校（児童数120名 7学級）
「保護者が主体になる家学(うちがく)のススメ」

※学校運営協議会設置校

○ 目標の達成に向けて、保護者が主体的に取組を進めている。



家学だより
令和元年7月5日
日田市立朝日小学校教育委員会

取組組んだ数 全校児童数120名
実施期間 6月10日～23日(14日間)

学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
取組数	18	20	19	18	25	19	107
取組率	100%	85%	79%	100%	85%	84%	88%

令和元年の家学、昨年度より実施率が増えた... 提出日を忘れたのか? 回収後に提出しているものと推定し、回収分を累計したのを報告します。

必修コース ネット21

学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
必修	18	17	17	18	25	19	107
選択	0	3	2	0	0	0	5

14日間の取組みはどうでしたか?
ネット動画やSNSは使いいかが? ネット動画やSNSの使いかたによっては便利なものですが21時以降の使用は必要でしょうか? デラゲラ画面を眺めるくらいなら早く寝た方が健康的だと思います。
昨年と同じ高学年になると遅くまで使用する傾向にありますね。家学は「親の気づき期間」でもあるので、次の期間中は是非、子供のネット使用時間を狭めてみて下さい。SNSなども控えて下さい。

必修コース 一学期の振り返り
A. 振り返りシート
B. 振り返りシート
C. 振り返りシート
D. 振り返りシート
E. 振り返りシート
F. 振り返りシート

選択コース 一学期の振り返り
A. 振り返りシート
B. 振り返りシート
C. 振り返りシート
D. 振り返りシート
E. 振り返りシート
F. 振り返りシート



学校と家庭の役割分担が明確。

1学期のコース（14日間の取組の一例）

- 必修コース (例)**
全校共通で「21時以降、インターネットを使用しない」
- 選択コース (例)**

知コース

- A 鉛筆・箸の持ち方
- B ゲームの時間
- C 親子で読書タイム
- D 帰宅後すぐ宿題
- E 親が宿題の丸付け
- F 自由 ()

徳コース

- A 家の手伝い
- B 親子でお風呂
- C 親子で日記
- D 言葉づかい
- E 学校の前日準備
- F 自由 ()

体コース

- A 親子で散歩
- B 親子で外遊び
- C 親子でサイクリング
- D 親子で柔軟体操
- E 腹筋の回数比べ
- F 自由 ()

PTA通信「家学だより」